

## 第二回中間報告

期間：1 学期期末期間～イースター休暇（1 月-3 月）

国際ロータリー第 2710 地区

2024-2025 年度 グローバル補助金奨学生

近森 由衣

1. 報告書提出日：2025 年 5 月 22 日 第 2 回報告

### 2. 基本情報

氏名：近森 由衣

派遣クラブ・カウンセラー：福山北ロータリークラブ、坂田 光徳 さま

受入クラブ・カウンセラー：Rotary Cheadle Royal, Mr. Patrick Tyrrell

教育機関：マンチェスター大学（University of Manchester）

専攻分野：MSc Development Economics and Policy

### 3. 学業面での成果

12 月中旬からはクリスマス休暇に入り、年明けから約 4 週間にわたり期末試験期間がありました。この期間には、レポート課題が 2 つと筆記試験が 2 つ課され、初めての長文アカデミックレポートに苦戦しつつも、すべてのコースを無事に修了することができました。授業最終日には、コースメイトとの交流会が開催されました。社会人経験のある方が多く、今後のキャリアパスやそれぞれの国の文化について意見を交わすことができ、非常に有意義な時間となりました。



前期に課題としていた「授業中の発言」や「ディスカッションへの積極的な参加」については、英語に慣れてきたことやクラスメイトとの関係が深まったことで、次第に自信を持って発言できるようになりました。以前より緊張せずに、自分から発言の機会を増やせるようになったと感じています。また、後期の授業は前期に比べて内容がより専門的で難易度も上がっていますが、一つの成長として、学術論文が以前よりも読みやすく感じられるようになりました。分析手法の理解が深まったことで、論文の構成や論理の流れがより明確に見えるようになったのだと思います。

1 月末から始まった第二学期では、以下の 4 科目を履修しています。

#### ① Development Microeconomics（開発ミクロ経済学）・選択必修科目

開発途上国における貧困、教育、労働といった課題を、個人や家庭の行動に注目し

て分析する授業です。経済学の理論と実証研究を基に、実際の課題とそれに対する対応策について学んでいます。

② **Anti-poverty Transfers (貧困削減のための現金・現物支援)・選択科目**

現金や食料などを貧困世帯に直接支給する支援制度について、経済学的な視点から理論と実例を交えて学ぶ授業です。支援対象の選定や分配方法、実施上の工夫、政策としての役割とその評価方法など、幅広いトピックを扱っています。

③ **Causal Inference of Policies, Interventions and Experiments (政策・介入・実験の因果推論)・選択科目**

実験的データや観察データを用いて因果効果を推定する手法について学ぶ授業で、理論と実践の両面から因果推論の主要な分析手法を身につけています。

④ **Applied Development Economics Project (応用開発経済学プロジェクト)・必修**

自らの関心に基づく実際の開発課題をテーマに、調査計画の立案からデータ分析、レポート作成に至るまでを一貫して行う、実践的なプロジェクト型の授業です。

私は特に計量経済学に関心があり、前期で習得したデータ分析スキルを実際のプロジェクトに応用することが自身の課題と感じていました。そのため、後期では「Anti-poverty Transfers」など実務に直結する講義を選択しました。また、計量経済学の中でも特に実データの活用を重視する「Causal Inference」の講義も履修しています。

現在、このレポートを執筆している時点で、修士課程の講義は残り1週間となっています。その後、1か月間の期末試験期間を経て、いよいよ修士論文の執筆期間に入ります。4月からはスーパーバイザー（指導教員）が決まり、研究テーマの具体化が本格的に始まるため、今まで以上に主体的な学びが求められると感じています。

#### 4. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

2月には Stockport-Lamplighter ロータリークラブにてプレゼンテーションの機会をいただきました。約30分間の持ち時間の中で、自身の研究内容やグローバル奨学金、日本の文化などについてお話ししました。質疑応答では、日本とイギリスの大学制度や文化の違い、そして私自身について多くの質問をいただきました。

どのクラブや地区の例会に参加しても、皆さまが温かく迎えてくださり、とても嬉しく感じています。プレゼンテーションでは緊張から早口になってしまい、伝え方に課題が残りましたが、多くの現地の方々の前で発表するという貴重な機会をいただき、本当に感謝しています。今回の経験を踏まえて、次はもっと分かりやすく伝えられる



よう、しっかり練習を重ねていきたいと思います。

4月には、受け入れクラブである Rotary Cheadle Royal の例会に参加する予定です。今回は、同じくマンチェスター大学の修士課程で学んでいる、ロータリー笹岡奨学基金の奨学生の方とご一緒させていただく予定です。5月からは講義が終了するため、これまで以上にクラブの活動にも積極的に関わっていきたいと考えています。

## 5. 直面した課題、問題点

1月は、期末試験と就職活動の両立が特に大きな課題となりました。2月末にロンドンで開催された「ロンドンキャリアフォーラム」（留学生やバイリンガルの学生を対象とした就職イベント）に参加するため、試験準備と並行して就職活動も進める必要がありました。

説明会や面接の多くは日本時間で行われるため、時差の関係で早朝や深夜に予定が入ることもありました。渡英直後は生活や学業に慣れることに精一杯で、ほとんど何も手をつけられませんでした。今振り返ると、もう少し早い段階から準備を始められていればよかったと感じています。その一方で、留学中でもオンラインで選考を進められる機会があることは非常にありがたく感じました。

キャリアフォーラム当日は多くのイギリスを含む他国の留学生と交流することができ、非常に刺激的でした。この経験を通じて、今学んでいることを将来どのように活かすか、そして残りの留学生生活をどう過ごすかを改めて考える良いきっかけになりました。

## 6. 今後の課題、目標

試験の成績は概ね良好ですが、アカデミックライティングにはまだ課題を感じています。特にレポート課題は評価が厳しいと聞いていた通り、実際に高得点を取るのには難しく、もっと改善が必要だと感じています。ほとんどの科目で丁寧なフィードバックをいただけるので、それをしっかり活かしながら、後期の試験や課題にも引き続き取り組んでいきたいと思っています。また、これから取り組む修士論文では、自分の関心やこれまでの学びを活かして、学部時代の卒業論文よりも社会的にも意義のあるテーマに挑戦できたらと思っています。

## 7. その他の特記事項

3月に入ってから、イギリスでも一気に春らしい陽気になってきました。2月までは朝9時頃まで薄暗く、夕方4時には日が暮れる毎日でしたが、日が長くなり晴れた日も増えてきました。道端にもお花が咲いていて散歩が楽しいです。写真に写っている黄色い花は「Daffodils（スイセン）」で、イギリスの春を象徴する花だと、ロータリークラブの方が教えてくれました。また、例会のときにおすすめしていただいた湖水地方

(Lake District) にも行くことができ、素敵な時間を過ごせました。



気づけば、留学生活も折り返しを迎えました。国際ロータリー第 2710 地区、福山北ロータリークラブ、ロータリー財団、そして Rotary Cheadle Royal の皆様には、このように貴重な学びの機会をいただき、改めて心より御礼申し上げます。残りの期間も、学業はもちろん、課外活動にも意欲的に取り組み、この経験を最大限に活かしてまいります。